

働く人の健康を考える

ワーク&ヘルス

広島市南区金屋町8-20 TEL 082-264-4110

郵便振替口座 01310-9-42400

目次

◆ 呉海上自衛隊員アスベストに被曝

医官意見書「石綿ばく露により肺がん」

◆ 講演会：難治性疼痛、学習障害・

発達障害の新経路療法について

講師： 広島大学医学部臨床教授、友和クリニック院長 宇土 博 先生

◆ 石綿運搬 日通2審も賠償命令

元社員の死亡で1,3億円

◆ 中皮腫患者を遺伝子治療へ

岡山大病院 臨床研究

◆ 告知板

2014年 2月28日

第225号

広島労働安全衛生センター

呉海上自衛隊員アスベストに被曝 医官意見書「石綿ばく露により肺がん」

呉に在住されていて海上自衛隊を退職されたＹさんから一昨年、安全センターが主催する「労災・アスベスト１１０番」に相談がありました。

被災者のＹさんは昭和３０年７月に自衛隊に入隊以来、平成元年に定年退職するまでの約３４年のうち、約１２年の艦艇勤務中、機関科員として、配管、破損部品等の応急修理に従事し、石綿ばく露下の作業環境にありました。

Ｙさんは平成１８年に自衛隊総監部に「公務災害申請」を行いましたが、センターに相談に来られるまで自衛隊総監部は「公務災害申請」を放置したままでした。

Ｙさんの病歴は、平成１１年６月に胸部検診で異常を指摘され、その年の７月に呉医師会病院で腫瘍を認め、原発性肺がんと診断を受けました。そして８月に広島市民病院で肺小細胞癌の診断で放射線化学療法を受け軽快しましたが、平成１２年５月から６月まで治療に伴う放射性肺臓炎のため再び広島市民病院で入院加療されました。その後も、平成１７年３月急性心筋梗塞のため呉医療センターで入院加療を受け、その年の１０月に左胸水貯留を認め、再び呉医療センターで入院加療を受けました。平成１８年１月には冠動脈バイパス手術を受け、同年３月に左胸水の貯留で再び入院加療を続け現在に至っています。

Ｙさんの病歴からして一刻も公務災害認定を受けなければならないのに「公務災害申請」を放置したままの総監部の姿勢には怒りを禁じ得ません。

こうした中、本件の表題タイトルに表記されている「医官意見書『石綿ばく露により肺がん』」との意見書が防衛医科大学校Ｄ医官、自衛隊中央病院Ｍ医師、及びＳ医官より意見をいただくことができました。医官の意見書の「まとめ」には、少々長いが次のように述べられていますので紹介します。

「まとめ、細胞診の所見は組織型を特定できないものの、肺に発生した悪性腫瘍が疑われる異型細胞であることには問題なく、施設で肺癌と診断したことは妥当と考える。また、肺癌に対する治療を行い治療効果があったことも肺癌の診断を裏付けるものであり、組織的な診断は得られていないが肺癌と診断することは妥当と判断する。

以上より、本件は海上自衛隊勤務における石綿ばく露により生じた良性石綿胸水とは判断できないものの、石綿ばく露により生じた肺癌（組織型未確定）と診断する。」と述べられています。

Ｙさんは現在も体調は思わしくなく、昨年の年末・年始にかけて持病の心筋梗塞で入院されていました。自衛隊総監部は医官の意見書に沿って、一日も早く「公務災害認定」を行うことが精神的に安心させることになると思います。早急に決断されることを期待します。

講演会：難治性疼痛、学習障害・ 発達障害の新経絡療法について

講師： 広島大学医学部臨床教授、友和クリニック院長 宇土 博 先生

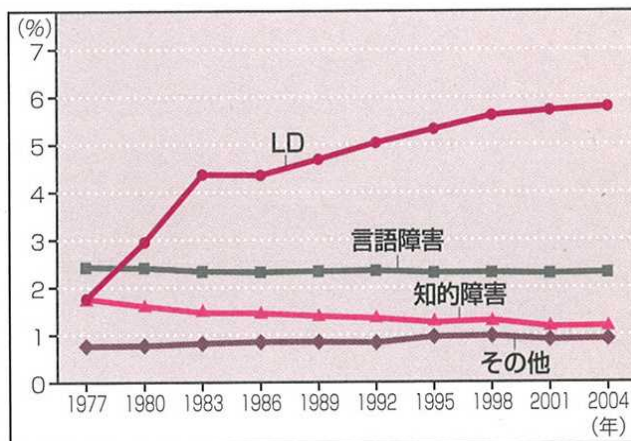
新経絡療法は、日本、中国の伝統的な鍼灸療法を基盤としながら、2000 年の歴史を持つ難解な経絡理論を整理し、新しく開発された経絡療法です。大きな特徴の一つは、体表にある 12 本の経絡を結ぶツボである「絡穴」を使用し、陰陽の経絡を繋ぐことによって、経絡のエネルギーの詰まりを効果的に改善できるようになりました。これまで治療が困難であった外傷性疼痛症候群（CRPS）、帯状疱疹後神経痛、脊柱管狭窄症、胸郭出口症候群、三叉神経痛などの難治性の疼痛や学習障害・発達障害、てんかんなどの難治性の疾患を改善させることができます。

新経絡治療のもう一つの特徴は、手足の経絡というツボのネットワークを鍼の代わりに金属製の押し棒で刺激し、全身のエネルギーの流れを調整し、疼痛、免疫異常、自律神経障害などを改善させます。患部を直接触らず、副作用がなく、鎮痛効果が高く、優れた療法です。

今回の講演では、腰や頸肩腕などの難治性の痛みと学習障害の療法に焦点を当ててお話しします。

学習障害は、全般的な知的発達に遅れはありませんが、聞く、話す、読む、書く、計算する、又は推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す状態です。そして、学習障害の原因として、中枢神経系に機能障害があると推定されています。また、周辺障害として、多動、運動の障害、ソーシャルスキルの障害などを伴っています。2005 年の日本の文部科学省の調査では、小・中学に通う生徒の 4.5% に学習障害の疑いがあるとされています。そして、その数が増加する傾向にあり、世界的に大きな教育的問題となっており、それを改善させる方法が求められています。新経絡療法は、学習障害・発達障害の改善に大きな成果を見せています。詳しい情報は、日本新経絡医学会のホームページ（new-keiraku.jp）を参照ください。

講演・実技の後は、個別の相談・指導を行います。お申込みください。



講師：宇土博先生(医学博士)

広島文教女子大学教授

広島大学医学部臨床教授

友和クリニック院長

日本新経絡医学会会長



米国での学習障害の生徒
の増加

日 時 2014年3月4日(火) 講演・実技 13:00～15:30、個別相談 15:30～17:00 参加費 無料・子供同伴可

個別相談・指導は希望制で予約が必要。(講演参加者に限ります:E-mail: audo@udoergo.jp に申込み下さい。)

場 所 パリ日本文化会館 5F レセプションホール

パリ ブランリー通り、101Bis Quai Branly, 75015 Paris、TEL: 33-1-44-37- 95- 01

申込締切 2014年2月25日(火) 先着順・定員になり次第、締め切ります。(定員 40 人)

申込・お問合せ E-mail: audo@udoergo.jp 事務局: 友和クリニック・日

本新経路医学会

☆学習障害(LD)、発達障害、難治性疼痛でお悩みの方はもちろん、医療関係・教育関係・障害福祉関係の方々などご興味のある方ならどなたでも(フランス語・英語)参加可能です！是非ご参加下さい。

石綿運搬 日通2審も賠償命令 元社員の死亡で1, 3億円

アスベスト(石綿)の運搬に携わり、中皮腫や肺がんで死亡した日本通運(本社・東京都)の元社員5人の遺族が、日通に約2億2250万円損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決が30日、大阪高裁であった。

小島浩裁判長は1審・神戸地裁尼崎支部判決に続き、安全対策を怠った日通の責任を認定。ほぼ同額の約1億3300万円を支払うよう命じた。

判決によると、5人は1950～80年代、クボヤ旧神崎工場(兵庫県尼崎市)に石綿を運んでいた運転手などで、57～76歳で死亡した。

小島裁判長は、石綿の危険性について、国の研究などから59年に日通も認識できたと判断。防じんマスクの着用指導や安全教育を社員にすべきだったのに、「指導・教育をしていたとは認められず、安全配慮義務を尽くしていたとは言えない」と結論付けた。

2002年に74歳で亡くなった大



迫清香さんの妻操さん（78）は判決後、「長い間頑張ってきて、いい判決もらった。日通は上告しないでほしい」としている。

原告は09年に提訴。12年6月の1審判決は、日通に1億3700万円の支払いを命じ、日通側が控訴していた。

1月31日付け 毎日新聞朝刊より掲載

日本通運広島支店では

この件に関連して広島の呉で日本通運広島支店と粘り強く交渉を続けておられるMさんに大阪高裁判決の内容を郵送しました。後日、Mさんより「大変勇気づけられた」と感謝の電話がありました。また、日本通運広島支店との関係では裁判の行方を意識しているのか「広島でことが起きればそれなりの対応をする」と表明があったと同時に、元従業員の健康診断に呉支店営業所が、病院へ車で送迎に全面的に協力する姿勢を見せるまでになってきたとMさんから報告がありました。

Mさんは「高齢ではあるけれど出来る限りこうした運動に協力していくつもりでいる。センターの会員として加盟したい」と決意が述べられました。共に頑張りましょう。

中皮腫患者を遺伝子治療へ 岡山大病院 臨床研究

岡山大病院は19日、アスベスト（石綿）が原因とされるがんのひとつ、中皮腫に対する遺伝子治療の臨床研究を始めると発表した。

18日に厚生労働省の部会で承認された。肺を覆う胸膜の中皮腫で手術や抗がん剤治療ができない患者が対象。15人以上を治療し、安全性を確かめる。

豊岡伸一教授（呼吸器外科）によると、治療に用いるのは「REIC」というタンパク質を作り出す遺伝子。動物実験などで、がん細胞を死滅させるなどの効果があることを確かめている。

臨床研究では、無毒化したかぜのウイルスにこの遺伝子を組み込んだものを体の外から中皮腫におかされた部位に直接注射する。注射から4週間、副作用がないか確認しながら、がんが小さくなっているかどうかを調べる。

早ければ来月から始める。中皮腫は治療が難しく、2012年には国内で1400人が死亡している。

2月20日付け 朝日新聞朝刊より掲載

告知板

今月号の225号でも記事として紹介しているように、友和クリニックの宇土博医師がフランスのパリで「講演出張」されます。

滞在期間 2月28日～3月8日

講演会 難治性疼痛、学習障害・
発達障害の新経絡療法について
講演会場 パリ日本文化会館 5F
レセプションホール

安全センター恒例の「労災・アスベスト110番」を開設します。

日時 3月1日（土）～2日（日）

両日とも午前10時～午後5時まで電話受付

電話番号 082-264-4110

主催団体 広島労働安全衛生センター

広島労働安全衛生センターは、個人会員・団体・賛助会員で構成されています。
そしてその会の活動は、会員の会費によって運営されています。

私たちは、働く人たちが心も、元気で働くことのできる快適な職場作りの情報を
提供します。

あなたも会員・読者に

◆ 会費（月）

◆ 個人 1口 400円

団体 1口 2000円

〔尚、会費は本誌購読料を含みます〕

ホーム・ページはこちら

hiroshima-raec@leaf.ocn.ne.jp

<http://www.10.ocn.jp/~hicenter/>